

令和6年度 学校経営計画書

学校番号	63	学校名	静岡県立袋井高等学校	校長名	須藤 秀幸
------	----	-----	------------	-----	-------

1 スクール・ミッション

磐周地区の地域に密着した全日制普通高校として、校訓「自立・連帯・敬愛」のもと、教科学習だけでなく地域やグローバルについての探究活動やこれからの多様な学びを求める大学進学への対応を通して、生徒自らが主体的に活動し、他者と協働しながら、将来地元地域や国際社会に貢献する人材の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>変化の激しい社会において、自ら主体的に取り組み、他者と協働し、積極的に貢献できる人材の育成を目指し、次の4つの力を育む。</p> <p>(1) 自ら課題を発見し、解決に向けて論理的に思考し判断する力。</p> <p>(2) 科学的な視点で物事を探究し、新たな価値を創造する力。</p> <p>(3) 自らの考えを的確に表現し、他者に向けて発信する力。</p> <p>(4) 健やかな心身と、互いを敬愛し連帯する力。</p>	<p>普通科高校として、共通教科・科目等を中心に多彩な選択科目を配置し、生徒一人ひとりの進路実現にこたえるカリキュラムを編成し実践する。</p> <p>(1) 探究活動を中心とした教科横断的な教育活動と系統的な教科学習をとおして、「主体的で対話的な深い学び」を実践する。</p> <p>(2) 大学・企業・自治体等の外部機関と連携し、課題発見型の探究活動と自身のキャリア形成を実践する。</p> <p>(3) ICTを活用し、フィールドワーク、プレゼンテーション等多様な学びを取り入れることで、多様な価値観を理解し、互いに認め合う関係を築く。</p> <p>(4) 学校行事や部活動等を生徒主体で運営することで、生徒の主体性を育み、個々の成長を促す。</p>	<p>確かな基礎学力と高い志があり、粘り強く学び続ける意欲をもった生徒を求める。</p> <p>(1) 大学進学を目標に、確かな基礎学力をもとに、多様な学びに対して主体的に取り組む生徒。</p> <p>(2) 向上心を持ち、社会貢献を目指して努力する生徒。</p> <p>(3) 多様な人々と協働しながら新たな価値観を生み出そうとする生徒。</p> <p>(4) 学校行事や部活動、ボランティア活動等に積極的に取り組む生徒。</p>

(2) スクール・ポリシー具現化の柱（取組目標）

- ア 生徒の「志」を育てながら、進路実現に向けたきめ細かな進路指導を推進する。
- イ 基礎・基本と自律的学習習慣を身につけるため、予習・復習の習慣と生徒自身の振り返りを奨励する。
- ウ 授業研究、ICT、教育研究の知見を活用して時代に合った授業改善を推進する。
- エ 部活動、学校行事、HR活動、生徒会活動等をとおして文武バランスの取れた学校生活を送れるようにする。
- オ 挨拶、身だしなみ、言葉遣い、清掃、自律的な生活等の基本的な生活習慣の確立をとおして生徒の公共性と自律心を育てる。
- カ 読書、ボランティア活動、地域活動、国際交流、大学連携等をとおして地域や国際社会で活躍できる知見と豊かな人間性を育成する。
- キ 生徒・職員の安全・安心な生活環境を整えるとともに、有用な予算の執行に努める。
- ク 業務の効率化と精選に努め、多忙化を解消する。
- ケ 保護者、近隣学校、地域との連携を深めるとともに、積極的な情報発信に努める。

3 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	生徒の「志」を育てながら、進路実現に向けたきめ細かな進路指導を推進する。	補講や進路学習を実施し、生徒が進路実現に向けた目標設定と学習ができるよう支援する。	「補講や進路学習は、進路目標達成のために役立っている」と答える生徒70%以上。	進路研修課
		生徒が自分の学力を的確に把握するための評価を行い、個票等を迅速に提供する。	「通知表、成績個票等により自分の学力と課題を把握できた」と答える生徒90%以上。	教務情報課
		1年:自分の進路を見据えた主体的な文理選択を行う。 2年:大学進学を見据え、HR活動、集会、面談、オープンキャンパスなどを活用した進路選択を行う。 3年:生徒が進路実現に必要な準備と実践ができるように個々の志望に合わせた情報提供と助言を行う。	1年:「自ら進路について考え、文理選択を行えた」と答える生徒90%以上。 2年:「自分の進路希望に合ったコース・科目選択ができた」と答える生徒90%以上。 3年:「進路実現に必要な情報を収集し、志望校合格に向けた計画と準備ができている」と答える生徒90%以上。	各学年
		生徒が模擬試験、学びの基礎診断等を活用して自分の学力を的確に把握し、自ら学習方法の改善に努めることができるようになる。 各教科で模擬試験の事前・事後指導を実施する。	「外部模試等の結果をその後の学習に生かすことができた」と答える生徒が70%以上。 主な模擬試験について事前・事後の指導を行う。	進路研修課 各教科
イ	基礎・基本と自律的学習習慣を身につけるため、予習・復習の習慣と生徒自身の振り返りを奨励する。	学年段階に応じた適切な授業実践と家庭学習課題提供をとおして、生徒の自学自習の習慣化を目指す。	「自分で計画を立てて目標の家庭学習時間(平日:1・2年2時間/3年4時間、休日1・2年3時間/3年6時間)を確保できた」と答える生徒70%以上。 「学習方法の見直しや改善ができている」と答える生徒70%以上	各学年 各教科
ウ	授業研究、ICT、教育研究の知見を活用して時代に合った授業改善を推進する。	教職員の授業研究をとおして、アクティブ・ラーニング(型)やICTを活用した授業を実践するとともに、生徒が自らの意見を発表する機会設定するよう工夫する。	「アクティブ・ラーニング(型)、ICT活用など教材・教え方に様々な工夫をしている先生が多い」と答える生徒75%以上。 「積極的に発言できた」と答える生徒70%以上。 「受け身でなく積極的に授業に取り組めた」と答える生徒70%以上。 「授業で扱う内容に興味・関心を深めた」と答える生徒70%以上。	各教科

		課題発見型・デザイン思考の探究活動をととして生徒が主体的に考え、社会をまなざし、情報発信できるようになる。	「探究の時間は生徒の意識の啓発につながっている」と答える教職員 80%以上。 「探究活動をととして自分の興味や関心を深めたり、広げたりすることができた。」と答える生徒 90%以上。 校外での課題発表大会や探究型の研修会に参加する生徒 50人以上。	進路研修課
エ	部活動、学校行事、HR活動、生徒会活動等をととして文武バランスの取れた学校生活を送れるようにする。	部活動に主体的に取り組む環境を整えるとともに、午後7時30分完全下校を徹底し、家庭学習時間を確保する。	県大会出場部活 10以上。「2時間以上の勉強と部活動の両立ができている」と答える生徒 70%以上。	生徒課
		学校行事や生徒会活動への取組をととして生徒の主体性、創造力・企画力・運営力、協働性を育む。	「学校行事や生徒会活動に積極的に参加している」と答える生徒 90%以上。 「学校行事や生徒会活動への取組をととして創造力・企画力・運営力、協働性等が向上した」と答える生徒 70%以上。	
オ	挨拶、身だしなみ、言葉遣い、清掃、自律的な生活等の基本的な生活習慣の確立をととして生徒の公共性と自律心を育てる。	日常指導、HR活動、面談、集会などを通じて規範意識、挨拶の励行、適切な言葉遣いなどの社会性を身につけさせる。	「頭髪・服装のルールを守っている」と答える生徒 95%以上。 「明るい挨拶や場面に応じて言葉遣いができている」と答える生徒 85%以上。	生徒課
		並進、一旦停止義務違反の撲滅を安全教室や交通指導をととして重点的に指導する。	「一旦停止無視や並進をしないなどのルールを守って登校している」と答える生徒 90%以上。	保健厚生課
		ポスター掲示、清掃重点箇所の提示や委員会による清掃点検を定期的実施し、委員会が中心となり美化意識を高める。	「清掃時に級友と協力して、担当場所をきれいに清掃できた」と答える生徒 80%以上。 「みんなが使うものを大事に使うことができている」と答える生徒が 90%以上。	
カ	読書、ボランティア活動、地域活動、国際交流、大学連携等をととして地域や国際社会で活躍できる知見と豊かな人間性を育成する。	朝読書やオリエンテーションの実施、読書ノートの利用により読書指導を推進する。広報活動や図書委員会活動を充実させ来館者数を増やす。	図書館の本の貸出冊数が平均 3.8冊以上。 「学校図書館は学習活動の充実に役立っている」と答える教職員 90%以上、「学習活動等の学校生活に役立っている」と答える生徒 80%以上。	図書課
		グローバル社会にふさわしい国際交流活動を計画・実践する。	国際交流活動プログラムを再構築し、企画・運営する。 校外の国際交流プログラム、留学に関する情報提供を充実させる。	進路研修課
		袋井市との連携協定に基づく各種活動や連携大学への研究室訪問等を推進する。	連携大学への研究室訪問に延べ50人以上の生徒が参加する。	管理職

様式第 1 号

キ	生徒・職員の安全・安心な生活環境を整えるとともに、有用な予算の執行に努める。	実践的な防災訓練や防災学習の実施等により、生徒・職員の防災意識をより高める工夫をする。 「危機管理マニュアル」「防災計画」を適宜改定し、各自の役割や対応が合理的に割り振られている。	大規模地震等に対する防災意識が高まり、自分でできることを実践している」と答える生徒が 80%以上。 「危機対応時における対応の仕方を理解している」と答える教職員 90%以上。	総務課 管理職
		「こころの健康調査」「朝の健康観察」「保健室だより」等を通して、心身の健康増進に取り組み、職員との連携・情報の共有を図る。	「心身の健康維持、増進のために積極的に取り組んでいる」と答える生徒が 80%以上。	保健厚生課
		落ち着いた学校生活・友人関係構築に向けた教育相談や特別支援の体制を作る。	「悩みがあるときに、学校内外に相談できる人がいる」と答える生徒が 75%以上。	
		施設・設備・物品の整備についていち早く危険箇所や不具合を発見・対応するとともに、環境整備や美化に努める。	「施設・設備・物品の整備・美化に努めている」と答える教職員、保護者 90%以上。	事務室
		学校の窓口として、常に丁寧な対応を心掛け、来客や外部からの問い合わせ等に速やかに対応する。	「学校の窓口として適正な対応をしている」と答える教職員、保護者、生徒 95%以上。	
ク	業務の効率化と精選に努め、多忙化を解消する。	校内管理システムの運用を職員に徹底させ、仕事の効率化を図るとともに、業務を見直し多忙化解消を図り、休暇の取りやすい職場環境を整える。	「仕事の効率化と業務の見直しが図られ、心身の負担が軽減された」と答える教職員が 60%以上。 「必要に応じた休暇が取れる職場環境である」と答える教職員 90%以上。	管理職
ケ	保護者、近隣学校、地域との連携を深めるとともに、積極的な情報発信に努める。	P T A 活動を見直し、持続可能な活動にする。	「P T A 総会、授業参観、地区会等の P T A 活動に 1 回以上参加した」と答える保護者 70%以上。	総務課
		情報発信・わかりやすい学校行事案内の作成に努める。	「教育方針や学校生活の様子及び諸情報がよく伝わっている」と答える保護者 80%以上。 ホームページ更新を月 20 回以上。	
		中学生一日体験入学、公開授業の円滑な運営を行う。	「一日体験入学に満足した」中学生が 60%以上。中学生の一日体験入学参加が 750 人以上、公開授業が 200 人以上。	総務課 管理職

(記入上の留意点)

具体的な重点項目が外部の方にもわかりやすいよう、工夫して記載すること。